

■尾形乾山 陶工、画家。尾形光琳の弟。財産を蕩尽した兄を助け、その絵付などで京焼に新風を吹き込み、大繁昌。

おがたけんざん

殉死の禁止・1663＝

京都の呉服商〔雁金屋〕宗謙の三男に生まれる。名は権平。次兄は尾形光琳。

酒井忠清大老1666＝3歳：

・・・・・・1671＝8歳：祖母と妹1人が死去。

東西海運確立1672＝9歳：

・・・・・・1676＝13歳：母が死去。

藤十郎登場・1678＝15歳：〔雁金屋〕最大の顧客東福院が死去し、衰退に向かう。

越後騒動・1679＝16歳：妹2人が死去。

徳川綱吉將軍1680＝17歳：

天下一禁止・1681＝18歳：

堀田正俊暗殺1684＝21歳：

若年から学問を好み、光悦の孫空中斎光甫や楽一入に陶法の手ほどきを受け、

生類憐令始・1687＝24歳：父が死去、遺言で三つの屋敷と家宝や道具の半分を相続し、乾山と改名。

兄光琳が放蕩三昧するなか、地味な生活を送り、

・・・・・・1689＝26歳：洛西双ヶ岡に習静堂を建てて隠棲、参禅や学問に励む。

湯島聖堂・1690＝27歳：

早くから本阿弥光悦の孫や楽一入から手ほどきを受けていたこともあり、

近くにあった御室焼の陶工野々村仁清から本格的な陶法を学び、

生類憐令頂点1695＝32歳：

・・・・・・1699＝36歳：*仁清の嫡男清右衛門から仁清の陶法伝書を受け、兄光琳が出入りしていた二条家から山屋敷を拝領すると、鳴滝泉谷に乾山窯を興して陶工になる。生活苦に陥っていた兄光琳に絵付けをして貰い、成形、施釉などは押小路焼の陶工孫兵衛が担当す、さらに毎年のように二条家に茶碗等を献上するなど、プロデュースの才を発揮して、乾山焼の名は高まり、

赤穂浪士討入1702＝39歳：「色絵藤原定家国歌組物」、

団十郎刺殺・1704＝41歳：兄光琳が江戸に下向したため、その絵付けはしばらく途絶える。

従来京焼に新風を吹き込み、乾山の詩賞のある「銚絵黄山谷観鵝図角皿」や「銚絵芦鶴図角皿」、また「元禄年製」銘のある釉下着彩の「色絵切紙文四方皿」などがこの期の代表作となるが、

・・・・・・1706＝43歳：「銚絵山水図四方鉢」、

江戸っ子拘束・1708＝45歳：二条家に年頭御礼茶碗献上。

徳川綱吉没・1709＝46歳：兄光琳が京都に戻り、その絵付けを再開、

・・・・・・1710＝47歳：「銚絵松鶴図六角皿」、

冥途の飛脚・1711＝48歳：「銚絵六歌仙額皿」「銚絵梅図角皿」「銚絵鶴図角皿」ほか。経営不振となって遺産も使い果たしたため、

乾山陶器店・1712＝49歳：*鳴滝窯を閉窯し、二条丁字屋町で焼物屋を始めるや、一気に乾山焼の名が知れ渡り、粟田口や五条坂の窯を借りて懷石道具などを量産、「乾山焼」と称して手広く販売、洛中の人気を集め、

和漢三才図会1713＝50歳：「三才図会」にも取り上げられるが、

国姓爺合戦・1715＝52歳：二条家に年始花筒茶碗献上。

徳川吉宗將軍1716＝53歳：*兄光琳が死去してしまう。

隅田川の桜・1717＝54歳：

以後、しばらく低調であったが、

懷徳堂公認・1726＝63歳：

徂徠没・・・・1728＝65歳：「独樂園記大鉢」、

・・・・・・1731＝68歳：この頃、輪王寺宮公寛法親王の知遇を得て、江戸に下向し、寛永寺領入谷で窯を開き、

享保大飢饉・1732＝69歳：

江戸では絵画も描いていたが、兄光琳とは全く異なり文人風の味わいある独特のものであった。

昆陽蕃蕃考・1735＝72歳：

・・・・・・1737＝74歳：下野佐野に招かれて作陶。「陶工必用」(江戸伝書)、「陶磁製方」(佐野伝書)を著している。

・・・・・・1743＝80歳：江戸で、没した。

「人づくり風土記(京都)」、安村敏信「江戸の絵師」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、